

調査速報

台湾電子関連企業売上高（2019年9月）

iPhone 頼みの回復には危うさがある

主任研究員

山鹿 亜紀子

045-225-2375

[yamaga@yokohama-ri.co.jp](mailto:yamaga@yokohama-ri.co.jp)

要約

- 台湾電子関連企業65社の9月売上高は、iPhone関連企業の好調により前年同月比2.4%増。
- ただし、個社別には全体の約4割の企業の売上高が前年割れをしており、全体が回復に転じたとは判断するには時期尚早。
- 今後も、回復をiPhoneに頼る構造は変化しないと予想する。また、ノートパソコンやスマホ関連企業の売上高には、米国による対中関税引き上げ前の前倒し発注も含まれる可能性がある点に留意が必要。

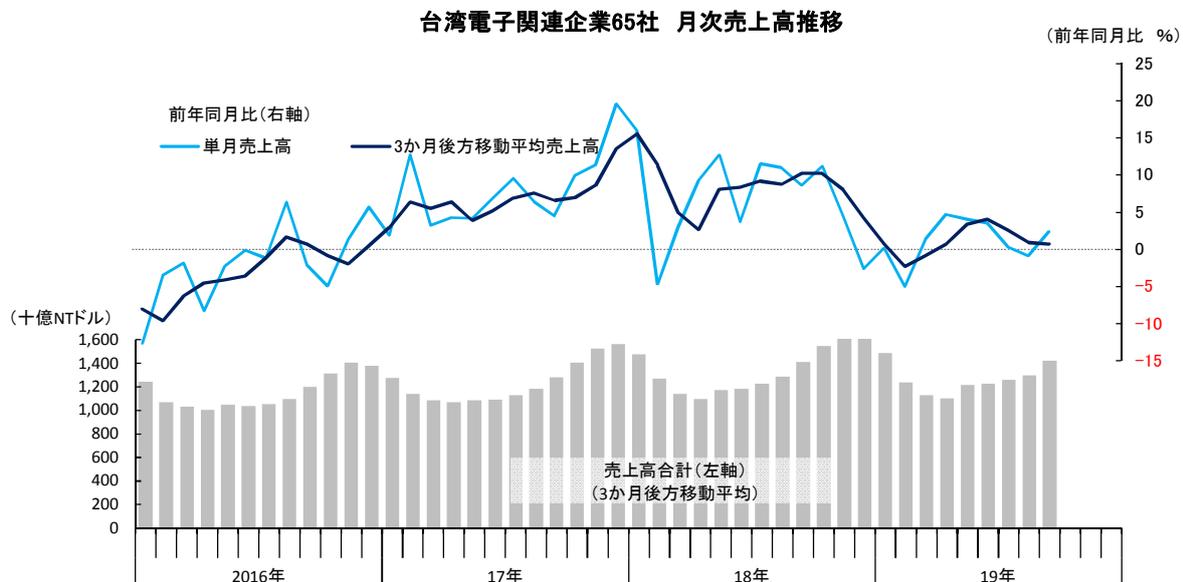
1. 台湾電子関連企業の9月売上高は前年同月比2.4%増となるも、iPhone 頼みの回復には危うさがある

台湾は電子部品産業が集積している。また、台湾企業の月次売上高は翌月中旬に公表されるため、速報性が高く、電子部品産業の動向を示す先行指標となっている。

浜銀総研が抽出した、台湾の代表的な電子関連企業65社の9月の売上高合計は、前年同月比2.4%増となった。全体への寄与度が高い鴻海精密工業（ホンハイ）や和碩聯合科技（ペガトロン）が、新型iPhone（iPhone11シリーズ）向けで売上高を伸ばしたことが、回復の背景である。

ただし、個社毎には全体の約4割にあたる25社の売上高が前年割れとなっており、業界が押しなべて回復に転じたとは言い難い。また、iPhoneを含むスマホ関連企業やノートパソコン企業の売上高には、米国による対中関税引き上げ（12月15日発動）を前にした前倒し発注が含まれている可能性も否定できない。iPhoneのみに頼った足元の回復には危うさがあると考ええる。

図表1 台湾電子関連企業の9月売上高は iPhone 関連企業が牽引し、前年同月比 2.4%増加



注：台湾企業65社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している電子関連の代表的な企業を浜銀総合研究所が抽出  
出所：Taiwan Stock Exchange,M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

## 2. 新型 iPhone の売れ行きは好調だが、前倒し発注や買い控えに対するリスクに注意【EMS】

EMS 8社の9月の売上高合計は、前年同月比3.3%増となった(図表2)。iPhone11シリーズの組み立てで最大手のホンハイの売上高は、前年同月比0.5%増で、前年同月での伸び率は8月と同じだが、前月比では47.4%増と大幅に増加しており、iPhone11シリーズの生産が本格的に売上に寄与し始めたことが確認できる。また、同じくiPhoneを手掛けるペガトロンの売上高も、前年同月比31.5%増(前月比60.3%増)と大幅に伸びた。

iPhone11シリーズの販売は、米国、中国ともに好調で、店頭では品薄状態にある。各種報道によると、アップルは、2019年末までの生産台数を当初計画から1割ほど引き上げた模様で、関連企業の売上高は、今後更に伸びる見通しだ。ただし、増産分には、米国による対中関税引き上げ前の前倒し発注が含まれている可能性も否定できず、2020年モデルのiPhoneが5G対応になることを睨んだ買い控えが今後(特に最大商戦期となるクリスマス商戦にて)顕在化するリスクが残る点には、留意が必要だろう。

他方、iPhone以外、主としてパソコンやサーバーの組み立てを行うEMSの売上高は、4社が前年同月比を下回る結果となった。具体的には、広達電腦(クアンタ)が同3.1%減、緯創資通(ウイストロン)が同9.1%減、英業達(インベンテック)が5.9%減、金寶電子(キンポ)が同8.6%である。サーバ需要の低迷に加え、一部のEMSでは、ノートパソコンで対中関税引き上げ前の前倒し発注の反動減があった模様である。

### 【半導体】

半導体企業11社の9月の売上高合計は、前年同月比4.7%増となった(図表3)。ファウンドリの世界最大手のTSMCの売上高は、前年同月比7.6%増となり、全体の回復を牽引した。iPhone11シリーズのアプリケーションプロセッサや、5G(第5世代移動通信)インフラ向けの受注が売上高の増加に寄与した。そのほか、半導体の後工程を手掛ける企業3社、LSI設計企業3社の売上高も、前年同月比でプラスとなった。

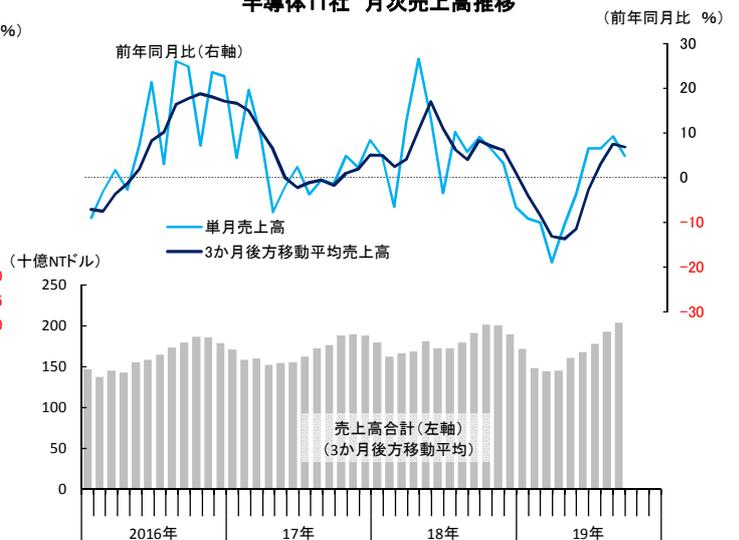
他方、メモリ企業は苦戦が続いている。DRAM大手の南亜科技(ナンヤ・テクノロジー)の売上高は、前年同月比で37.3%減となり、減少率は8月(同36.6%減)から更に拡大した。ただし、足元では、メモリ(DRAM、NAND型フラッシュメモリ)の在庫調整が進展し、価格も底這いからやや持ち直す兆しが出ているため、ナンヤの売上高も、10月以降に底入れすると見込まれる。

図表2 EMSはiPhone関連企業が伸長  
EMS8社 月次売上高推移



注: 8社は、Hon Hai Precision、Pegatron、Compal Electronics、Wistron、Inventec、Qisda、Kinpo Electronics。  
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

図表3 メモリ低調もTSMCの好調が牽引  
半導体11社 月次売上高推移



注: 11社は、United Microelectronics、Taiwan Semiconductor Manufacturing、ASE Technology、King Yuan Electronics、Nanya Technology、Winbond Electronics、Macronix International、MediaTek、Novatek Microelectronics、Realtek Semiconductor  
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

### 3. 電子部品22社の売上高は前年同月比1.6%減、光学部品8社は同1.3%増

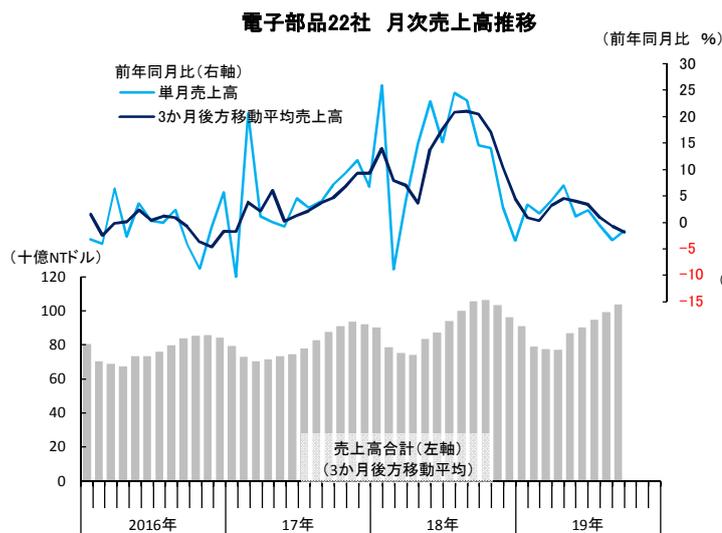
#### 【電子部品】

電子部品22社の9月売上高合計は、前年同月比1.6%減となった（図表4）。プリント配線板企業に回復感が見られる一方で、抵抗器やコンデンサといった受動部品を手掛ける企業の減少額が大きく、3か月連続のマイナスとなった。積層セラミックコンデンサは、昨年末から在庫調整が始まったが、これは既に一巡し、足元では需要に沿った生産水準になっていると見込まれる。しかし、積層セラミックコンデンサ台湾大手の国巨（ヤゲオ）では、生産拠点の中国蘇州工場で、一時期稼働率が50%を割り込み、ワーカーの離散が起きたために、在庫調整が一巡した現状においても、人手不足で生産の拡大が出来ていない模様である。ワーカー不足は時間の経過とともに解消すると見込まれるが、出荷最盛期に低稼働率となるダメージは大きい。反面、日系コンデンサ企業には、プラスの影響を与える可能性もあろう。

#### 【光学部品】

光学部品8社の売上高合計は、前年同月比1.3%増となった（図表5）。8社中5社の売上高が前年同月で減少したが、iPhone向けにレンズを供給している大立光電（ラーガン）の売上高が、同19.5%増と大きく伸びたため、全体ではプラスとなった。

図表4 電子部品は受動部品企業の減収で低迷



注：22社は、Zhen Ding Technology、Unimicron Technology、Tripod Technology、HannStar Board、Nan Ya Printed Circuit Board、Global Brands Manufacture、Kinsus Interconnect Technology、Chin-poon Industrial、Flexium Interconnect、Gold Circuit Electronics、Compeq Masufaturing、Elite Material、ITEQ、Taiwan PCB Techvest、Yageo、Walsin Technology、Delta Electronic、Chicony Power Technology、Cheng Uei Precision、Chicony Electronics Industry、Pan-International Industrial、Primax Electronics  
出所：Taiwan Stock Exchange,M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

図表5 光学部品は iPhone 関連が伸びる



注：8社は、TPK、GIS、Radiant Opto-Electronics、Largen Precision、Everlight Electronics、Epistar、Darwin Precisions、Taiwan Surface Mounting Technology  
出所：Taiwan Stock Exchange,M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。